

社会福祉法人 三愛福祉会
 幼保連携型認定こども園
 きむら認定こども園

園概要

昭和31年から平成27年度まで62年間現地できむら保育園として保育・教育を進めてきました。平成28年4月より、幼保連携型認定こども園 きむら認定こども園となりました。

基本理念

【安心そして信頼すべては子どもの最善の利益のために】

基本方針

- ・子ども達が望ましい未来を作り出す生きる力の基礎を培います。
- ・愛情いっぱいにあたたく受容し、信頼感や自己肯定感を育てていきます。
- ・日光、空気、土と水を大切に、子どもが育つ場にふさわしい施設設備に努めます。
- ・一人ひとりの子が、力いっぱい、精いっぱいの生活ができる楽しい園づくりを目指します。
- ・保護者や地域の人達に好かれ、信頼され、地域の団体や諸機関にも開かれた園づくりを目指します。
- ・地域社会の一員として園に関わるすべての人々の自己実現につながる活動を目指します。

保育目標

友達と仲良くできる子 からだの丈夫な子
 一生懸命がんばる子 よく考え行動する子
 思いやりのある子

「たくましい体と心豊かな子どもの育成」をめざして子ども一人一人が、楽しく充実した園生活を送れるように努力する。

本年度重点的に取り組む目標

職種に関係なくすべての職員が連携し、保育・教育の充実に主体的に取り組む。
 新たな発想が保育に活かせるよう、外部研修や園内研修の充実、保育の見直しを行っていく。

評価項目別の達成及び取組状況

項目	取組状況
基本理念・基本方針・保育目標を認識し、職員間の共通認識を図る。	基本理念・基本方針・保育目標については保護者の方へも説明する内容。3月の研修では職員に周知し、職員間の共通認識として保育にあたるようにしている。
保育、教育内容	各クラス一人一人の心とからだの発達の状況を把握し、心身の安定と創造性、道徳性、心情や思考力の芽生えを培い主体的に取り組めるよう保育しています。保育のマンネリ化が懸念されているので意識して発想力を発揮できるような取り組みが必要と感じる。
保育の質を向上させる会議、研修の充実	職員会議や省察会議、反省会、園内研修や外部研修で、園内での課題や子どもの発達の姿や環境構成や援助、取り組みへの心構え等話し合う時間を有効にみんなが意見の言いやすい場となるように努めている。又、2園合同の園内研修を行ったりして交流や学びの場を通じてお互いに活かしあいのできる環境づくりをしている。
保育計画への職員間の共通理解を図る。	会議等でふり返った内容を活かし次の計画に反映させている。 全体でのつながりのある保育が展開できるような話し合いの場の充実は課題

危機管理	危機管理マニュアルの把握ができるようにしている。 避難の仕方や事故、不審者対応などの事態に対応できるように知識を深める。 定期的に見直す当事者意識を全員が持てるように周知、徹底につとめていきたい。
保護者とのかかわり	保護者とのかかわりではコミュニケーションをとることを大切にし、信頼関係を築いているが、今後も保護者との協働の精神を忘れず寄り添い良い関係を築きながら園への要望だけでなく、園の考えを理解していただき協力してもらえるように丁寧に対応していく。
地域との交流	地域のお祭りに参加したり、老人福祉施設との交流や小学校の1年生との交流、中学・高等学校の生徒さんとの交流、ボランティアの受け入れをし、子ども達が地域とともに成長していける環境構成に努めている。 近くの公園へ行って地域の方と触れ合ったりする中で挨拶や思いやりなどの気持ちを大切にできるような取り組みを行っている。

職員一人一人が自己評価をしてみたの総合評価結果

保育計画や会議などでの大切さと保育のふり返り見直しの重要性の再確認ができ又、園の保育の取り組むべき課題と園の方針を全職員が理解を深めることができた。
それぞれの職員が自己評価することで、個々の課題を具体的に確認することができた。

今後取り組むべき課題

- 1、全体的な計画・保育計画の編成
子ども達により良い保育、教育をしていくために今の現状、今後の社会を見据えより子ども達のために実態に即した内容に変えていく。
- 2、職員のより一層の質の向上
園内研修、園外研修、職員会議、省察会議等に意識を持って参加し、発想豊かに保育にあたるようにしていく。
- 3、職員としての基本姿勢を周知徹底
子ども達に良い保育をするために個々が課題を再確認し、現状に満足せず常に上をいざして保育にあたる。